

令和5年度 第3回下野市生涯学習推進協議会 議事録

審議会等名 令和5年度第3回下野市生涯学習推進協議会
日 時 令和6年3月18日（月）午後1時30分から午後3時05分まで
会 場 市役所3階 303会議室
出席者 鈴木健一会長、榆木久美子副会長、田澤孝一委員、石川知子委員、上野文夫委員、
下山千恵子委員、大垣玉枝委員、松本文男委員
【欠席】梅山博行委員、菊地孝宏委員
市側出席者 生涯学習文化課 根本宣明課長、橋本幸昌主幹、大塚隆邦主査、山中裕貴主査

- ・公開・非公開の別 (公開 一部公開 非公開)
- ・傍聴人 1名
- ・報道機関 なし
- ・議事録（概要）作成年月日 令和6年3月27日（水）

【協議事項等】

1. 開会（根本課長）

2. 会長あいさつ（鈴木会長）

（鈴木会長）今年には正月に能登半島地震が発生し、今でも苦勞されている方が非常に多くいる。コミュニティの団結、地域や行政の課題が一気に表出しているようだ。生涯学習の推進を通じ、対応していくことが重要だと感じる。他人事ではなく、知見を広げ、実践力を身に付けることが大切。下野市防災ポータルサイトの防災マップ・ハザードマップなどで、自宅付近の災害発生危険度を確認してみた。市民の方に幅広く知っていただくことが大切。本協議会の役割は、市政と市民をつなぐ、市民の声を反映すること。委員から忌憚のない意見を頂戴したい。

3. 議事

（1）令和6年度生涯学習実施計画について

（2）下野市生涯学習推進計画（第三次）の進捗状況について

（根本課長）これより議事の進行は、下野市生涯学習推進協議会設置要綱第6条第1項に基づき、鈴木会長にお願いします。

（鈴木会長）議事時間については15時を目途に区切りたいと考えるが、よろしいか。

<委員了承>

（鈴木会長）資料3の25ページに記載されている本協議会の役割を再確認したい。生涯学習推進計画の推進と進捗管理の項目である、生涯学習施策を決定・実行するのは市の役割。協議会は、市民と行政の連携を深め、市民の学習ニーズに応じた取組を進めていくために、市民や議会の声を聴くのみならず、声を反映させるルートの一つとして、市民で構成する「生涯学習推進協議会」を設置されている。個人的な声も含め、委員所属の各団体の声をいただければありがたい。また、計画の進捗管理について、市長を本部長とする推進本部は、本協議会の提案を基に、実施計画を作成し、本協議会へ報告

することとなっている。本日はその報告である。また、各実施機関が実施した事業の実績を本協議会へ報告し、事業の更なる改善のための提案を受けるとある。令和6年度の実施計画を踏まえ、令和7年度の提案を協議するサイクルとなっている。なお、諮問・答申は、5年に一度、推進計画の策定の際に行っている。

本日は、議決事項はなく、意見交換が主となる。議題（1）（2）は関連があるので、一括して説明いただきたい。事務局より説明を求める。

(事務局) 資料1に基づいて説明。

(鈴木会長) 昨年7月に、代表して私から市長へ令和提言書を提出した。本協議会の提言内容を踏まえ、令和6年度実施計画を作成したとの報告があった。それでは、各委員から発言願いたい。まず、事前に意見のあった楡木副会長よりお願いしたい。

(楡木副会長) 資料4に、令和6年度実施計画中の提言該当事業がまとめられている。提言1の『命を守る』生涯学習・社会教育の取り組み強化』に関しては、男女共同参画の観点から、防災施策に関わる女性職員の配置を増やし、多様な意見の反映をしていただきたい。また、子育て施策に関して、新規事業が多くみられるので期待している。

(事務局) 防災に関しては、安全安心課が所管している。安全安心課内には、女性職員の配置がすでになされている。

(松本委員) 本市は災害が少ないとされるため、危機意識が薄くなりがち。研修や訓練等での学習を通じた啓発が必要と思う。その際、気軽に参加してもらうため、地域の祭り等と連携して行う方がよい。

(大垣委員) 民生委員の立場からすると、高齢者や障がい者への心配りは、職員により差がある。

(鈴木会長) 今年度、グリムの館にて、宇都宮大学の先生を招へいし、男女共同参画に関する講演会を開催したと聞く。

(上野委員) 公運審では、主に公民館講座について議論している。予算削減の影響もあると思うが、今まで開催していた講座を終了し、自主サークル活動に移行するとされた講座がある。災害時の対応に関連した話は、あまり議論していない。

(石川委員) 事務局から机上配付された資料であるが、社会教育委員会では、今年度、公民館や図書館の機能強化に関する提言をとりまとめ、今月、教育長へ提出した。利用しやすく魅力的な施設を目指し、多くの方に利用してもらうため、「居場所」として活用やデジタル環境の整備を提案するとともに、参加しやすい社会教育の活動を目指した情報発信の強化、具体的には、公民館等で開催する高校生や大学生向けのイベント情報をSNSへの掲載などを挙げている。

(鈴木会長) 提言書に書かれている「関連施設等との連携」も重要である。各地区のコミュニティセンターとも関連がある。

(石川委員) 地域のコミュニティセンターとの連携でさらにいえば、地区毎に事情が違う防災・災害対応について、地区で講習会を開催するなど、きめ細かく実施してほしい。

(下山委員) 図書館協議会としては特にはないが、災害発生時の避難先を改めて知っておく必要があると感じる。

(田澤委員) 実施計画の総事業数が年々増加しているため、業務負担が過剰になっていないか心配である。また、子どもの人数が減っているが、子育て世代向け講座を、転入希望者へも周知するなどし、人口減少に歯止めをかけることや市の魅力発信につなげることは

できないか。

(事務局) 子育て世帯向けの事業としては、小学校入学生の保護者を対象の公民館家庭教育講座として、令和6年度は全公民館が「小学校ってどんなところ？」を主催する予定である。

(鈴木会長) 保護者と先生との面識ができ、親しみをもってもらいやすくなると思われる。

実施計画に関して、令和3年度から事業の総数は増えている。うち提言該当事業に関しては、提言内容を充実させたことで増えたものもあるが、「学びを支援する」、「学びを活かす」の項目は、ほとんど増えていない。なお、Wi-Fi環境は整備されたので、成果として集計できるようにしてもよいと思う。生涯学習施設・設備の充実は、時代に応じたものを導入すべき。パソコンが古かったり、プロジェクターが整備されていない施設も多い。また、カラーコピーに対応していない施設もある。

(松本委員) 同感である。音響機器の充実も必要である。

(上野委員) 個人が持参した音響機器の方が性能が良かったこともある。

(鈴木会長) 公民館に配備する備品は災害・避難所運営時にも役に立つ可能性がある。他の関連予算も活用し、整備していただきたい。

(3) 令和7年度事業への提言について

(鈴木会長) 令和7年度事業への提言について、フリートークで議論いただきたい。それでは、事務局より説明事項があればお願いしたい。

(事務局) 資料は特に用意していないが、令和6年度の推進協議会の開催回数は、現在の3回から2回に減らし開催予定である。第1回目は7月上旬頃を予定している。

(鈴木会長) まだ令和6年度が始まっていないが、施策の検討スケジュールからすると、先をみて協議する必要がある。方針を明確にしたうえで、生涯学習の課題の解決のために、実施機関が企画を検討するという流れにする必要がある。

(石川委員) 令和6年度の南河内公民館講座「つながるスマホ講座」について、配付された生涯学習情報誌エールには、NPO法人の方が講師になっているが、どのように実施するか。

(事務局) 若者の活躍の場をつくる活動を行う市内のNPO法人が講師となるほか、学生サポーターが高齢者にスマホの操作を教えることが想定されている。

(石川委員) 若者が得意なことを教える「講師」という立場で講座に参加する、ということにヒントがありそう。ぜひ続けてほしい。

(鈴木会長) 市民の経験や能力を生涯学習講座や施策の中で、ぜひ発揮していただけるとありがたい。また、公民館などの生涯学習施設と、市民協働推進課所管の市民活動センターとが情報連携し、ボランティアや講師の情報を共有し、つながっていかないともったいない。関連施設の連携については、ぜひ提言に盛り込んでいきたい。

(大垣委員) 家庭教育事業が増えて楽しみであるが、特に無園児をもつ母親への支援が課題である。また、父親がどう子育てに関わってよいかわからないとの声を聞く。母親と父親の家事分担の意識のギャップで苦しんでいる。土日の夜間に「父親セミナー」を開催してほしい。宇都宮市や小山市はすでに実施している。

(鈴木会長) 全世代を通じた課題である。学校教育の中では、家庭科を学んだと思うが、学校教育と継ぎ接ぎで、社会教育、家庭教育支援においても学びの機会を提供することも重要である。同時に、社会全体で、子育てが大切であるとの雰囲気をつくっていくことも重要である。

(田澤委員) 学校ではSDGsを学んでいる。提言の内容がSDGsの項目にどう対応しているのかわかるよう、提言書に表示してはどうか。

＜他公務のため田澤委員退室＞

(鈴木会長) 評価基準の見直し、基準の明確化を検討していく必要があると感じる。

(下山委員) 先ほどの大垣委員の意見に関連して、令和6年度国分寺公民館講座「親を学ぶ」について、対象を父親に絞って開催してはどうか。

(鈴木会長) 土曜日午前の講座になっているようである。父親の参加を期待したい。最後に、私から2点提案したい。生涯学習の目標とは何か、が問われている時期である。学習すればそれでよいのか、何のために学習するのか。文科省では、「ウェルビーイング」という考え方が提案されている。国の教育基本計画で明確に位置付けられたら、市の計画に反映させる必要がある。ただし、「ウェルビーイング」という言い方は、言葉としては熟さないと思われる。表現は工夫していきたい。また、何人かの委員からすでに指摘されているが、市長部局との役割分担と連携強化について明確化することを提案したい。公民館や市民活動センター、コミュニティセンターのほか、自治公民館、民間体育館なども広い意味で生涯学習施設といえる。本市では、生涯学習施策を一元的にとりまとめる部署が生涯学習文化課であるが、生涯学習施策の推進に対し、市長が責任をもって一層推進することも一つの選択肢である。県ではスポーツ振興、文化財部門が首長部局へ移管した。栃木市では公民館が首長部局へ移管している。

(事務局) 生涯学習の目標は個人差がある。個人の学習と学習後の成果発表の場を求めている方もいる。公民館は、施設管理と講座が一体に運営されていることが特長である。本市の生涯学習施設の直近の課題としては、長寿命化対策を実施しているところであるが、空調や雨漏りなどの修繕に経費がかかっている。自治公民館も含め、避難所等の災害対応の拠点になることもある。施設が乱立することは市民にとってわかりにくいと認識している。課題を整理し、市の施策や施設の役割が伝わりやすいようにしていきたい。提案内容の検討にあたっては、近隣市町も参考にしながら進めたい。

(鈴木会長) 近隣市町が本市に追いつくということもあるように思う。

以上で、議事を終了する。進行を事務局へお返しする。

4. その他

(根本課長) 鈴木会長ありがとうございました。次第の「その他」について、事務局より説明願う。

(事務局) 机上配付した資料について説明する。1点目は、参考配付した社会教育委員会議の提言書について、五月女委員長より石崎教育長へ提言した。今月21日、教育委員会にて内容を報告する予定。2点目は、令和5年度生涯学習文化課主要事業実績報告について、社会教育委員会議時にも配付している。3点目は、第14回子どもなんでも発表会開催チラシについて、3月24日(日)、天平の桜歌会と同日開催で、国分寺聖武館にて小学生作品展示を行う。4点目は、委員任期が3月末をもって委員任期が満了する。任期中大変お世話になりました。現在、委員改選作業を進めているので、引き続き委員を依頼する場合には協力願いたい。

5. 閉会